

# JUMP トッパすてっぴ



「岩徹前社長（現・代表取締役会長）が10数年間行ってきたことは、存続できる会社を創るための財務体質改善です。それに加え、組織的にマネジメントシステムが動くよう、ISO9001および4001を取得し、今年6月にはOSHMS認証取得を行いました。その根底には、従業員が長い間勤めて続

けて『良かった』と思ってくれる会社にしたとの想いがありました。私はこれを引き継いでいきたいと思っています」と開口一番。

「前社長は部下を引っ張っていくタイプでしたが、私の役割はどちらかというと社内コミュニケーションの調整役、それから情報を集めて社内はどう流すかではないかと考えています」と謙虚に話す一方、「強い企業は社員が皆同じ意識を持っており、その根底には情報の共有化があります。私は、社内情報のオープン化にも努めたいと思います」と語る。

和田社長が情報を重視する背景には、入社後最初に配属された部署が情

報部門であり、また平成3年4月に導入した「生産時点管理システム P OP（ポイント・オブ・プロダクト）」に大きく関わったことがあると話

も関わりましたという。同システムは、製品を生産した時点で自動的に生産データをホストサーバに送るもの。従来は、伝票を見て1件1件データを入力する必要があったが、システムの稼働によりその手間が省かれた。効果はそれだけに留まらなかった。生産管理の中軸にシステムを据えたことで綿密な在庫管理につながり、結果として数年で在庫が半分になったという。

和田社長は、「今後も現場の声を吸い上げ、スピーディーにそれを製品化し、特色あるモノを世に出していきたい」と力を込める。

「さまざまなシステムの導入に努めてきた。その一環として、最近でも『メータバイスユニット』や『樹脂製メータボック集合メータユニット』といった特徴ある製品を発売している。」

日邦バルブ社長 和田 晃氏

## 特色あるモノを世に

しかし、給水装置の在庫管理は一筋縄ではいかないと話す。「どうしても、生産する製品が多品種少量になります。在庫管理は、コンピュータに頼るだけでは不可能です。そのため、営業部門と技術部門、製造部門がいち早く動ける体勢を今後も維持し、製品の即納に努めていきます」と強調する。

趣味は「ない」とは話すが、若いときから山に登っているという。最近では乗鞍岳に登っています。読書は、北杜夫（旧制松本高校卒業）と松本清張を読む「松本つながり」。

好きな言葉は、「特に持っていないませんが、楽天的に考え、くよくよしないことにしています」と話す。

同社は、「技術の日邦バルブ」として、他社に先駆けて新製品の開発や

さいたま市出身、昭和22年生まれの62歳 血液型B型。